寒玉系キャベツの4月どり作型の開発

【背景・目的・成果】
千切りなど加工業務利用の多い寒玉系キャベツの安定生産が求められています。しかし、冬を越して低温にあう4月どりの作型では、抽苔（ちゅうだい=トウ立ち）のために品質が低下しやすい問題があります。そこで、県南部地域における4月どりに適した品種を選定し、作型を開発しました。

1　品種と栽培方法

・低温にあっても抽苔しにくい「YR503」、「青龍345」を夏まきします。
・畝当たり2条で千鳥植えし、株間を35cm程度とします（畝幅120cmの場合、約4,760株/10a）。
・窒素の施肥量は合計36～40kg/10aとし、基肥に約12kg、残りを2回の追肥で年内に施します。

写真1　生育の様子（12月中旬）

追肥は年内とし、外葉を充実させます。

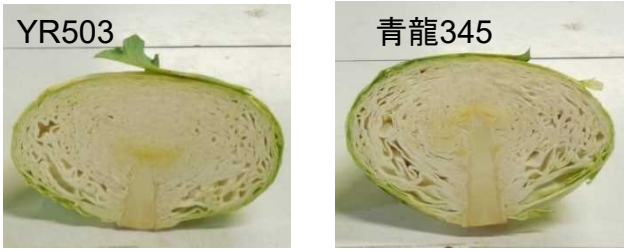

写真2　球の断面の様子（4月下旬収穫）

「YR503」は芯が伸びにくく、4月下旬まで良好な品質を保てます。「青龍345」はやや芯が伸びやすいですが、4月中旬でも大玉が収穫できます。

2　県南部地域に適した定植期の選定

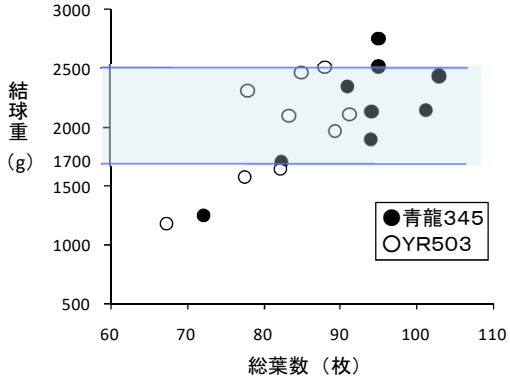

図1　総葉数と結球重との関係（加西市、2016～2018年の結果）

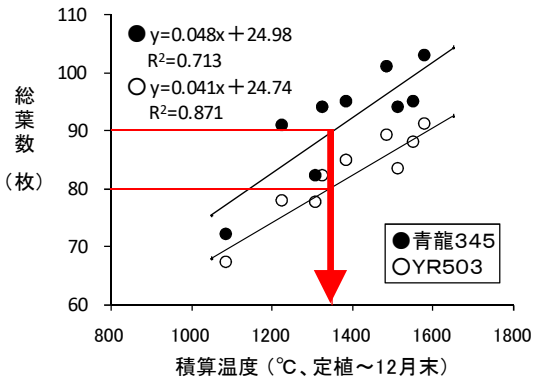

図2　総葉数と積算温度との関係（加西市、2016～2018年の結果）

加工業務に適した球重は約1,700～2,500gです。大玉生産には十分な葉数（播種～収穫までの総葉数、「YR503」で80枚以上、「青龍345」で90枚以上）が必要です。

低温期までに葉数を確保するため、年内に十分な積算温度（約1,350℃以上）が得られる時期に定植します。県南部地域では9月上旬です。

表　県南部地域における推奨作型（年間平均気温14.8℃程度の地域）

品種	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 上	4月 中	4月 下
ＹＲ５０３	○	△									□
青龍３４５	○	△								□	□

○播種、△定植、□収穫期　「青龍345」は、淡路地域（同、約15.5℃）では3月～4月上旬収穫になることがあります。

【技術の活用】　寒玉系キャベツの端境期にあたる4月どりが可能となり、有利販売や、作期拡大による生産規模の拡大が期待されます。

兵庫県 Hyogo Prefecture
兵庫県立農林水産技術総合センター
農業技術センター

研究成果紹介動画サイト